

親子の絆に焦点

読んで
広がる
NIE

国内外で活躍する米国出身の写真家、ブルース・オズボーンさん(63) 神奈川県が29日、那覇市の識名園で撮影会を開いた。ライフワークにして、いる「親子」シリーズの一環、県内の33組を招き、



県内の「親子」33組を撮影する写真家のブルース・オズボーンさん(左) 29日午前、那覇市の識名園

米出身写真家 沖縄で撮影会

独自の視点でそれぞれの絆の強さに焦点を当て、ベストショットをフィルムに切り取った。

オズボーンさんは1982年から今まで4500組以上の親子を撮影し、毎年展示会を開催している。沖縄では初の撮影会で、オズボーンさんを支援する補聴器メーカー・オーティコン社(神奈川県)の協力の下、琉球補聴器が主催した。

この日は核家族から大家族までが集まった。オズボーンさんは身ぶり手ぶりを交えて参加者の緊張を解きほぐし、笑顔と幸せにあふれる瞬間を一枚に収めた。子や孫ら6人で参加した宮里清さん(87) 西原町は「日ごろ家族そろって写真を撮ることもないので、良かった」とほほ笑んだ。

オズボーンさんは「やっと沖縄で撮影することができた。親子それぞれの笑顔や幸せな雰囲気にもパワーをもらっている」と満足そうに話した。「これを機会に展示会を開くなど、沖縄でも活動の幅を広げたい」と抱負を語った。